



ビジネスと人生(一)

David K. Reynolds, Ph.D.

道元禅師の典座（禅寺で、床座や粥などの仕事をつかさどる役僧）への指示を取り入れた、役員、管理職、社員など会社で働く人たちへの

アドバイス。

森田正馬のことばー「アドバイスをしてくれた人には礼を言うべきだが、アドバイスに従う義務はない」

アドバイスを理解しなくても、やってみて、役立つようであれば使ってください。

一人ひとりの仕事は会社の運営にとっても、事実が十分に機能するためにもとても重要です。

仕事には十分な注意力と献身的な態度が求められます。

この今とこの場所の仕事時間より他に自分が実際にどう生きるかの人生はありません。大切な人の求めに応えるように集注して仕事に臨みます。

自分を支え続けているたくさんの事実（人やもの、自然）に十分に応える機会になるように働きます。

◆ 書類事務

- ・ 誤字、句読点、内容の丁寧なチェック。
- ・ はっきりしない言い回しや余計な文章で読む人の時間を無駄にしない。
- ・ 報告書は神への供物とも云える。報告書や署名に神聖な面を探す。
- ・ 文字の点や線はだれかの人生の一瞬を表わしているともいえる。
- ・ 今のこの一瞬と一つの点は一生にたった一度しか起こらない。
- ・ 考えは打つことでコンピューターにインプットされる。インプットされたことをどう扱うか。
- ・ 報告内容をどう読むかは読む人次第で、結果はつけれないが、どう書くかは自分次第で責任がある。
- ・ 働く行動と考えどちらも大事。

◆ メモの活用

- ・ メモ一つでも事実の重要な報告であるから大切に作る。
- ・ どのメモからも記憶すべき意味を探す。
- ・ 役に立つことを紙屑といっしょに捨ててしまわないように。
- ・ メモから意味を選別し、興味本位にとらわれないよう意味を深める。
- ・ メモ書きと人生に句読点を適切につける。
- ・ メモは自分の人生の一部と認識してメモを取る。

◆ 机の上を整頓してきちんとする

- ・ キーボードや鉛筆などにはそれぞれ好みの場所がある。ふさわしい置き場所をみつけて置く。
- ・ アシスタントであり、熟練した処理をしてくれる事務用品や事務機器をうまく選ぶ。

◆ 明日の仕事の準備をする。

- ・ 準備も人生のうち。
- ・ 時間の無駄になっていること（例えば、書類の未整理）を今日中に省いて、明日に無駄と予測できることも取り除く。
- ・ さらに、取り除く作業もうまくやる。

◆ ごみ処理

- ・ 処分するのは名誉ある仕事。
- ・ ごみも尊敬に値する。
- ・ 書類整理も大事な仕事（無駄な時間をなくす結果が生まれる）—書類を捨てることも大事な仕事。
- ・ 余白のないレポートや間のないスピーチがありえないと同じに、捨てる書類があってレポートは作成される。
- ・ 捨てる書類を受け取ってくれるゴミ箱にお礼をする（ありがとう、空にする）。

◆コミュニケーション

- ・ 年配の上司からの指示にベストを尽くす
- ・ 自分の都合や感情的な不満を入れずに、詳細な資料で頃合いを見て説明、意見を言う。
- ・ できる限り職場での欠陥を見つけ完全なものに変える。
- ・ 自分の仕事を大事にして、役立つことを他の人に知らせる。
- ・ 相手に対しどんな感情があっても意見の違いがあっても、こまめな接触は必要。
- ・ 空想にふけったり、ぼーっとせずに、仕事上生じる事柄に注意を向ける。仕事は十分注目に値するし、あなたも注目に値する。
- ・ あなたの上に（上司）、下（部下）に、横（同僚）にある人はだれもいない—平等。だから、自分を尊敬すると同じように敬意をもって他の人を遇する。
- ・ 秘書、会計係、社長、社員全員がドアノブ、電力、水道に依存している。すべての人も同様。

◆仕事場の整理

- ・ 鉛筆の芯はいつも削っておき、ペンはずぐに書けるかチェック、コンピューターのファイルを起こし、覚え書き用の紙を置く。
- ・ 電話のメッセージはどれも聞き逃さないよう声と耳に集注する。
- ・ 葉書を出す、手紙を書く、契約書にサインするとき自分の人生を作っている。どんな人生にするか。

◆アイデア、新企画は発想の転換が必要

- ・ 広告キャンペーンを企画する際、今までに身についた見方で物事を見たり、古い考えのままでは新企画は出てこない。
- ・ 発想を変える一切手を王国に変えたり、消しゴムのカスを教師に変えて想像してみる—小さな物にもだいたいなインフォメーションがある—何を消したのか？
- ・ 事実がもたらすことを想像豊かに使う。
- ・ 回りをよく観察して、自分自身と呼べるものから自分について学ぶ。
- ・ 関わることは自分に関する事。

◆態度

- ・ 成功、失敗後をいいかげんにしない。感傷的にならない。
- ・ 注意を怠る状態にいるのは、愚かな姿勢。
- ・ 不注意は常に重要な事柄への視点を失うことになる。
- ・ 現実を見誤らない。
- ・ 事実が示すことはすべて重要。
- ・ 不注意（恐怖感があるときのように）な状態は行動を変えない限り広がる。
- ・ 特に話し中に不注意に陥りやすいので、事実と合った話しをするよう努力する。
- ・ 事実とは真実。（次号へつづく）